慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日吉加瀬山古墳發掘餘談
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.102(266)- 102(266)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0102

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

日吉加瀬山古墳發掘餘談

五月六日から廿五日における日吉加瀬山の白山・第六天の兩古墳を三田史學會が柴田常惠氏指導の下に發掘調査したことは最近に於ける考古學界に於ける一大收穫であつた。その豫報及び詳細なる報告はやがて學界にそれぞれ關係者により發表せられることと信ずるが兎に角二旬にわたる大發掘の間加瀬山の一角に集合した專門家非專門家の集團を中心として樣々な珍談奇談が續出し、多くの話柄を提供してをる。その中での秀逸は都下の某新聞が此古墳の發掘を報じて先住民族の酋長の古墳となし、曲玉の化石が發見せられたとか四十疊敷の先史時代の集會所の址が地下坑内に見出だされたとか云ふ與太を飛ばした事である。同紙記者に應接したのが柴田先生であるだけ記者の頭腦の程度を疑はざるを得ない。關東や奥羽の先史時代遺跡の年代引下げに特に關心を持たれる京都の某博士は此新聞記事は事實なりやと云ふ照會を早速よこせられた程御心配をかけた罪な記事である。一番稍正確な記事の出たのは朝日新聞だけであり、それも大分誤りが見受けられた。各紙社會部の記者は考古學の初歩位を知つて置く必要があらう（松本信廣）。